雅風会たより

第８号

目　次

- ◆　はじめに
- ◆　川村先生の作品から　- 幼子たち -
- ◆　横須賀・浄楽寺の運慶仏５体の国宝指定を夢見つつ
- ◆　「いいとこどり」で文殊さま造り
- ◆　あ・ら・か・る・と

2023 年 7 月 10 日　編集・発行 仏像彫刻「雅風会」
埼玉県所沢市西狭山ヶ丘 2-2090
URL: http://www1.cts.ne.jp/~h-1butsu/

◆　はじめに

「雅風会たより」第８号発行の運びとなり、皆様のご厚情の賜物と心から御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の位置付けが、「5 類感染症」に移行になり 2 ヶ月。日常の風景の変化が感じられるようになってきました。雅風会にもどうやら新風がそよそよと吹いてきましたが、次号ではみなさまに良いご報告ができるようにと思っております。

少し前のお話になりますが、宗教芸術院のホームページの新着情報に、「仏像彫刻教室（雅風会）のご紹介　／　雅風会の教室の一つ、新潟南魚沼市にある教室をご紹介！」（4 月 24 日付）の記事が掲載されました。ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、普段お会いできない皆様に、「雅風会、頑張ってま～す！」と発信していただけたような気がして、とても励まされました。

さて、恒例の仏教美術展は、今秋第 60 回目の開催となります。第 1 回は昭和 39 年（1964 年）に開催された「宗教美術展」。平成 24 年（2010 年）の第 49 回のときに「仏教美術展」に改称されて、60 年後の現在も続いているのは、関係者の皆様のご尽力があったことはいうまでもありませんが、いつも仏教美術に親しみその愉しさを共有する人々がいて、集う場になり続けてきたということ！改めてすごいことだと思います。今年も「あと１か月しかない」と焦る秋がきて、仏教美術展で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。　　（岩場記）

◆　川村先生の作品から　－ 幼子たち －

川村先生の作品の中には、たくさんの幼子（おさなご）が彫られている。

どの子も本当に可愛らしい。無垢であどけなく、このようなおさな子を彫る人は一体どのような人物なのだろうかと思う人もいるかもしれないなぁなどと思ったりする。

お酒が大好きで、晩年はお飲みになるとすぐにウトウト・・・なんていうのは俗世の一面で、私たちが知っているのも彫刻の先生というこれまた俗世の一面、ご自身がたった一人で彫り続けられたお姿は知る由もない。

幼子の彫像の可愛らしさに、記念館に行くたびに見入ってしまう。いつか、「幼子を彫るときは「御所人形」を参考にすると良い」とお聞きしたことがあるが、私は未だに「あどけない表情」「かわいらしい姿」を彫れる気がせず、彫ってみたいという気にもなれずにいる。

今は昔・・・、日曜教室後の東博の帰り、上野の古い構えの鍋物屋さんの２階座敷でのできごと。鍋料理を楽しんでいるご家族があり、大人たちは賑やかに談笑していた。しばらくすると、４～５歳位の女の子が先生のところへチョコチョコやってきて、なんとお酌をしたのである。無論先生は大喜びで「これはこれは・・・」「しょうらいゆうぼうだなぁ」と満面の笑みで照れ臭そうにお酌を受けていらっしゃいました。　（岩場記）

◆　横須賀・浄楽寺の運慶仏５体の国宝指定を夢見つつ　（鈴木　庸夫）

2023 年（令和５年）４月８日（土）、大学同窓会の先輩と横須賀・浄楽寺の「えんむすびのひろば」お披露目式に参加してきました。同時にお釈迦様のお誕生日祝い「花祭り」も行われました。

土川副住職の持つクラウドファンディング寄付者掲示板には個人としては私の名前が最初に記されており、ＮＰＯ法人鎌倉ガイド協会の名前も見えます。同窓会の鎌倉歴史散策の際にはガイド協会会員のお仲間がいつも案内されています。当日のお披露目式や「花祭り」等の様子は、「浄楽寺」とネット検索しますと、「【公式】浄楽寺オフィシャルページ」に記念集合写真や美しい仏像写真を載せて報告されていますのでご覧ください。ホームページが見違えるほど素晴らしく改訂されています。伊豆の願成就院の運慶仏（1186 年作）が 2013 年に国宝に指定されていますので、1189 年に造られた浄楽寺の運慶仏が国宝に指定されるのは時間の問題、ひょっとしたら今年にも決まるのではないかとの予感さえしています。

私は浄楽寺の運慶仏５体を模刻しており、その写真を浄楽寺にはお渡ししています。最初に不動明王像、次いで毘沙門天像を作ります。川村雅則先生から「運慶ばかり彫ってるね」と言われましたが、良い意味でおっしゃってくださったと解釈しています。我が家から車で 50 分ほどと距離的に近いこと、いや、それ以上に運慶を彫りたい一心からです。制作中の粗彫りを持って十数回通い、仏像の裏側まで廻って（今は前に柵があって入れません）鉛筆で線を入れていったものです。

いよいよ阿弥陀三尊像に進もうとしたところ、先生からは「不動明王像と毘沙門天像の２体のサイズに併せて、もっと大きい阿弥陀三尊を彫れ」と言われましたが、大きすぎて予算オーバーになりますので、先生に叱られるのを覚悟で２体との比率を度外視して、中尊は１尺５寸の坐像という小さいものにしました。先生は仕方ないなあと思ったことでしょうが、「浄楽寺の中尊の光背は後補なので、奈良興福寺北円堂の運慶作品・弥勒仏の光背が一番いいよ」と薦めてくださいました。

さらに、台座一式は、先生のご指示に従って私が図面を引いたものの、先生が大仏師・今村九十九先生のお兄様･今村滋孝･誠吾さん親子に木組みをお願いしてくださいました。金具も先生が頼んでくださいました。光背頂上までの高さは約８０センチです。

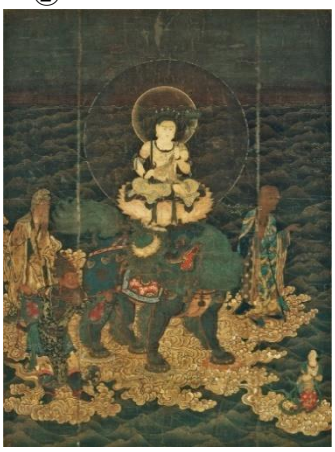
完成した５体を並べてみると、やはり先生に言われたとおり、最初から運慶仏５体の比率と合わせてそれぞれ模刻すべきだったかと少し後悔の念に捕われていますが、自分でもとても気に入っており、先生には本当に感謝しています。

◆　「いいとこどり」で文殊さま造り！

こんにちは、伊藤宗仁です。今回は第 59 回仏教美術展に出品致しました文殊さまについてお話しさせて頂きます。

①

②



出品時の名称は「渡海文殊菩薩騎獅像」と、ちょっと長めの名前なんですが、各部位に名品の「いいとこどり」をさせて頂きました。

まず全体像は、文殊さまの獅子が雲に乗り、海を渡って来られる姿①です。この構成は醍醐寺の掛け軸「文殊渡海図」②からヒントを頂きました。

次に本尊と光背ですが、こちらは東京国立博物館所蔵の「文殊菩薩像」を摸刻しました。獅子は同「文殊菩薩像」と奈良・般若寺の獅子をヒントに制作しました。

③

獅子が乗っている雲については、孫悟空の「筋斗雲」に似た雲③を参考にしました。

台座に当たる海については、どうしようかと考えていたところ、尾形光琳 作　「八橋蒔絵螺鈿硯箱」④の上蓋裏面⑤に波の絵が描かれているのを見つけ、これを使わせて頂きました。「八橋」が掛かるのは、川の水面であって海のそれとは本来異なりますが、尾形光琳が好んで採り上げた「伊勢物語」第 9 段の「八橋」の場面によるものだそうです。（「八橋」の地名には、おぼれ流されて行くわが子を、母は気も狂わんばかりに助けようとしたとの話もあり、その流れの勢いが海の波にも私には感じられました。）

文殊さまの各部位に、各名品をヒントに使わせて頂きました。それぞれの名品およびその作者に心より感謝しております。ありがとうございました。（伊藤 記）

④

⑤

＊＊＊　あ・ら・か・る・と　＊＊＊

◆　賛助会会員の皆様へ-令和5年度会員継続のお願い-

平素は雅風会の活動にご理解ご協力を賜り、御礼申し上げます。会員の皆様におかれましては、令和5年度（令和5年７月～令和6年６月）も引き続きご継続をいただけますよう、宜しくお願い申し上げます。※会費の宛先については、別紙をご参照ください。8月末日までにお納めくださいますよう、よろしくお願いいたします。

◆　「第60回仏教美術展」（宗教芸術院）開催のお知らせ

日時：令和4年11月3日（金）～11月5日（日）　※2日（木）は会場準備

場所：京都文化会館

出品申込：研鑽会員の方は岩場へ、教室生徒の方は各講師に、出品料を添えて８月末日までにお申し込みください。

賛助会員で出品ご希望の方や、11月2日（木）の作品搬入が無理な方は、竹内（090-9670-5328）までご相談ください。

（第 8 号編集責任：岩場）

第 9 号は明年 1 月に発行の予定です。